

令和2年度第1回帯広市交通安全市民会議 議事要旨

- 1 日時 令和2年8月27日(木) 14:00 ~ 15:20
- 2 会場 ソネビル6階 講習会室
- 3 出席者
委員 浅野 慎哉、太田 義彦、奥野 一男、佐竹 信也、鈴木 洋平、高島 寿、武田 光史、塚田 茂男、塚本 俊二、平舘 善明、前田 敏、村岡 克己、與坂 樹代二、米森 洋子
(以上14名、敬称略)
欠席者 猪子 荘太郎、船迫 郷子 (以上2名、敬称略)
事務局 総務部長 廣瀬 智、危機対策室長 石田 智之、危機対策課長 岡田 剛、危機対策課長補佐 佐藤 真樹、危機対策課主任 上野 智子、危機対策課主任補 千田 真実
(以上6名)
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 委員紹介
 - (3) 議事
 - ①交通事故の推移と発生状況について
 - ②令和2年度帯広市交通安全実施計画について
 - ③第11次帯広市交通安全計画の策定について
 - (4) 意見交換
 - (5) 閉会
- 5 議事
事務局より①から③を一括して説明

○交通事故の発生件数について前年度と対比した数字が記載されているが、発生件数で前年同期-60件、増減率-17.3%、死者数は前年度より1名減、傷者数は前年度より-72人ということで、傾向としては前年度より減っているということで受け止めて良いか。減っていることは非常に良いことだが、何かの取り組みをした結果がそういう数字に結びついているのか、自然な状態でこのような結果がでたのか、分析されている内容があれば教えていただきたい。

○帯広市のほか関係機関の皆さんと共に、街頭啓発等の取り組みを行ってきたほか、法改正や車自体の性能向上など様々な要因により、減少に繋がっていると考えている。

○65歳以上の交通事故が頻繁に起きているようで、それに伴って運転免許の返納が進んでいるのではと思いますが、帯広市はどのような状況か。

○運転免許返納の数は今持ち合わせていない。

運転免許を返納した高齢者に対する取組としては、高齢者バスの無料乗車証の対応や、各事業所で行っていただいているバス賃が半額になる制度などを紹介している。

○帯広警察署でも、帯広市だけではなく管轄全体の発生状況等過去5年間にわたって分析している。

死亡事故については、市街地の交差点の事故が多く、郊外においては直線道路での発生が多い。

亡くなられた方も高齢者の割合が多く、過去5年間で32名亡くなられているうち19名が高齢者の方で、半数以上を占めている。

現在の取り組みとしては、活動時間の午後2時から帰宅時間の午後8時、9時まで交差点の取り締まりを強化している。郊外部においても直線道路の事故が多いので速度の取り締まりを強化している。

6 意見交換発言要旨

○新型コロナウイルス感染拡大を受け、老人クラブにおける交通安全研修や啓発活動の機会は減少している。こうした活動の縮小が交通安全の推進に影響を及ぼさなければ良いと思っている。

○交通安全運動では、大勢の人が集まって行う活動が多い。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、十勝総合振興局では参集人数を縮小するなどして、啓発活動等を行っている。これから「十勝百日作戦」と称し、9月1日～11月30日まで交通安全運動を行う。

また、高齢者対策としては、高齢者が運転免許を自主返納しやすい環境づくりを目指し、北海道では10月からサポート制度を開始する。高齢者の運転免許返納を促していくためには、こうしたサポート制度の情報発信が大切であると考えている。

○コロナ禍において、旅客事業者として、明らかな感染者でなければ乗車拒否をすることができない。最も恐れていることは、運転手が感染してしまうことである。

○バスは乗客の目的地は乗車時の体調などを正確に把握することができないが、車内に消毒液を設置したり、換気をするなど、感染拡大防止に向けた対策を取っている。

○新型コロナウイルス感染拡大の影響で、業界の会合はほとんど中止となっていたが、7月から徐々に通常の流れに戻りつつある。

交通事故防止の取り組みとしては、9月から農作物輸送繁忙期を迎えることから、これに合わせて啓発活動を行っていくほか、トラック協会として交通事故抑止に向けた決起大会を開催する予定である。

○新型コロナウイルス感染拡大の影響により、交連協の活動もかなり縮小されている。新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた新たなライフスタイルの構築により、活動は転換期を迎えている。

交通事故をなくすためには、市民一人ひとりの意識を高めていく他にないと思う。高齢者の死者数が

多いというところに関し、どのように高齢者に向けて交通安全教育をしていったら良いのか悩ましいところ。

また、交通弱者である子どもたちを守るために、地域の見守り活動は今後も大切であるとする。

○普段の業務の中で、65歳以上の高齢者の相談を受けている。そこでは、運転免許の返納についてよく問題に挙がっている。帯広・十勝は車社会であり、高齢者から車を取り上げることが難しい場合がある。免許を返納した場合のメリットを周知していきたい。北海道が行う高齢者の運転免許返納サポート制度には期待している。

また、交通安全に関心がない人への啓発をどのように行っていくかが課題であるとする。

○多くの市民は、横断歩道を渡ろうとする歩行者が優先であるという意識が低い。小学生が道路を走行している車に遠慮して、信号機の押しボタンを押せない場面を見かけたことがある。

交通安全を推進するためには、市民の意識啓発が大切である。広報活動を通じて市民に交通安全について呼びかけてほしい。

○毎年8月19日に行っている「バイクの日」のパレードは、例年十勝管外、北海道外から約200名が集まるが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を中止した。今年に入ってからバイクによる事故が多いことが気になる。

○新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、自転車利用者が増加しているように感じている。自転車は歩行者と同じではなく、軽車両である。自転車利用者の保険加入や交通ルールの周知に力を入れている。

以上